

外国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時・場所 平成24年11月〇日(〇)
- 2 学年・対象 第2学年〇組
- 3 単元名 My Project 5 将来の夢を語ろう『Sunshine English Course 2』
- 4 単元設定の理由

○ 教材観

My Project は、これまで使用してきた教科書には設定されていなかった、特徴のある課(単元)であり、「4技能の総合的な育成」に、また「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成」に対応したものとなっている。外国語科における「4技能の総合的な育成」とは4技能をバランスよく育成することを意味し、「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成」とは、二つ以上の技能を有機的に関連させて活用できるコミュニケーション能力を育成することを意味しているものである。My Project は、それまでに学んだ言語材料を振り返り、統合的に活用することを通して、その言語材料の定着を図るとともに、生徒のコミュニケーション能力を高めることをねらいとした単元である。

本単元 My Project 5 は、自分の将来の夢について英文で書くことを目標としており、これまでに学習した to 不定詞、動名詞、接続詞の when や if などを含む文を活用させることができる。またモデル文として、プロゴルファーの石川遼選手が小学校6年生の時に書いた作文が紹介されており、生徒の興味を喚起すると思われる。

また生徒たちは、5月から職場体験学習の事前学習を行っており、本時の授業が行われる日の翌日から実際に職場体験に出かける。生徒たちにとっては、自分と周りにいる友人たちの将来に思いをはせ、中学校生活の後半を、目的意識をもって生活していくきっかけにすることができる教材である。

○ 生徒観

生徒たちは、1年時には「はつらつプラン」による少人数形式で、2年時からTTによる授業を受けてきた。4月当初は授業規律の点で課題があったため、改善の方策として、授業において繰り返し授業のルールを説明し、「全員が安心して過ごせる雰囲気をつくるのが英語の力を伸ばすことにつながる」ことを伝え続けてきた。

こうした中、対象学級では6月に生徒指導上の大きな問題があり、その解決のために取り組んだことがきっかけとなり、学級の状況が徐々に改善されてきたように思う。

9月に入ると、授業において目的にそってけじめのある活動を行うことができるようになってきた。特に声を出す活動が好きであり、音読を楽しんで行う。しかし生徒たちは、教科書の会話文(本文)を暗唱することはできているものの、それを活用して自己表現しようとするまでには至っていない。基礎・基本定着状況調査の通過率は、県の通過率・市の通過率を下回り「書くこと」については特に課題がある。

○ 指導観

「自分の将来の夢について書く」という本単元の目標を達成するために、ただ単にモデル文を参考にして書かせるのではなく、その前に、モデル文を聞いたり、読んだり、話したりする活動を行うことを通して生徒の思考を促したり、英文を書くための言語材料を獲得したり、生徒自らが英文を書く意欲をもつことができたりするよう授業を進める。また生徒同士で夢についてインタビューをさせることを通して、夢や目標をもつことが難しい生徒に対して前向きな気持ちをもたせたい。さらに、書いた英文を読み直させたり、友達同士で評価しあわせたりすることを通して、どのようにしたら自分の考えをより効果的に読み手に伝えることができるかについても考えさせたい。

モデル文である石川遼選手の作文については、生徒たちは興味をもつものの、やはり身近な存在ではないと感じており、「自分も夢をもとう」という動機付けにはなりにくいものとする。し

たがって、石川遼選手の作文に加えて、教師自身の夢も英文で示すことを通して、夢をもつというをより身近なものとして感じさせ、「自分も書いてみよう」という気持ちをもたせたい。

5 単元の目標

- ・ 読み手が理解しやすい英文を書くために、英文を読み直したり書き直したりすることができる。
- ・ モデル文を聞いたり読んだりして、その構成と内容を理解できる。
- ・ モデル文の文章構成を参考にして、自分の将来の夢について英文を5文以上書くことができる。
- ・ [want to +動詞の原形] の文構造を理解し、それを使用して自分の夢について書くことができる。

6 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 読み手が理解しやすい英文を書くために、英文を読み直したり書き直したりしている。	① テーマに従って、5文以上の英文を書くことができる。 ② テーマに従って、例を示したり理由を付け加えたりして英文を書くことができる。 ③ テーマに従って、文のつながりを意識した英文を書くことができる。	① モデル文を聞いて内容のポイントを理解することができる。 ② モデル文を読んで、その内容を、文章構成を意識しながら理解することができる。	① [want to] の表現を用いて、自分がなりたいものや、したいことについて英文で書くことができる。 ② 自分の夢について書くときに役立つ表現を正しく使うことができる。

7 単元の指導計画

時	学習内容	主な評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し学習用教材 ・ 将来の夢を、英文で書くための場面設定【別紙1】 ・ モデル文の内容理解【別紙2】 ・ モデル文の構成を確認 ・ 友達同士で「自分の夢」についてインタビュー【別紙3】 	ウー① ウー②	ワークシート ワークシート
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し学習用教材 ・ 前時のインタビューの振り返り ・ 必要な表現を含むモデル文の暗唱 ・ インタビューの振り返りとモデル文をもとに、自分自身の英文を書く。 ・ ピア・レビュー 	アー①, エー①, エー②,	ワークシート, 活動観察
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し学習用教材 ・ ピア・レビューの見直し ・ 英文の推敲 ・ 清書 	アー①, イー①, イー②, イー③	ワークシート・活動観察

8 本時の指導計画

(1) 本時の目標

- ・ [want to] の表現を用いて、自分のなりたいものや、したいことについて英文で書くことができる。
- ・ 自分の夢について書くときに役立つ表現を正しく使うことができる。

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

評価規準 (評価目標)	評価場面 (方法)	具体的評価規準		努力を要する生徒への 支援 (手だて)
		十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
<ul style="list-style-type: none"> • [want to] の表現を用いて、自分のなりたいたいものや、したいことについて英文で書くことができる。 • 自分の夢について書くときに役立つ表現を正しく使うことができる。 	ワークシート	[want to] の後は動詞の原形を用いて自分のなりたいたいものや、したいことを表現している。	[want to] を用いて自分がなりたいたいものや、したいことを表現している。	[want to] の文構造を確認したうえで自己表現できるよう空所つき補助プリントを準備する。
	ワークシート	自分の夢について書くときに役立つ表現を3つ以上、文のつながりを意識して使うことができる。	自分の夢について書くときに役立つ表現を2つ以上使うことができる。	モデル文をもとに、自分の夢を書くときに役立つ表現を確認できる空所つき補助プリントを準備する。

(3) 準備物

教科書・ワークシート・大型テレビ

(4) 本時の展開

学 習 指 導 過 程			
時間	生徒の活動	教師の支援 (発問・指示)	評価方法・評価規準 (○) 指導上の留意点 (※)
3分	1. Greetings T: Hello, every one. How are you? S: I'm fine, thank you. And you ? T: What's the date today? S: It's November 13. T: What day is it today? S: It's Tuesday. T: What time is it? S: It's 2:35. T: How's the weather.		※ 学級全体へ聞いた後、数人の生徒に対しては個々に声をかけ、生徒の様子を確かめる。短時間で行う。
7分	2. 繰り返し学習の時間	○ 繰り返し学習用教材 P. 49 の基本練習のみ聞いて書かせる。	※ 答え合わせは大型テレビを活用して短時間で行う。
35分	3. Today's Target [want to] を使って将来の夢を英文に書く	○ 本時の目標を示す。 ○ 本時の目標を自己評価シートに記入させる	

<p>4. 前時に行ったインタビューの振り返り</p> <p>○ 教師の会話を聞く。</p>	<p>○ 教師の会話を聞かせる。</p>	
<p>T1: ○○ sensei, what do you want to be in the future? T2: I want to be a Japanese sweets cook. T1: Why? T2: Because I like Japanese sweets. For example, sakuramochi and mizuyokan. They are colorful, healthy, and taste good. T1: What do you have to do now? T2: I think I have to learn about Anko.</p>		<p>※ 教師2人の会話からインタビューを行った時の質問項目とその意味を思い出させる。</p>
<p>○ 前時のインタビューの質問項目を発音練習し、意味を確認する。</p>		
<p>T: What do you want to be? 「何を聞いている？」 S: になりたいもの。 T: Why? 「何を聞いている？」 S: 理由。 T: What do you have to do now? 「何を聞いている？」 S: 今すべきこと。</p>		
<p>5. モデル文を使った活動</p>	<p>○ 三つの質問項目に対する自分の答えが何であったか確認させる。</p> <p>○ 教師が作ったモデル文を提示する。</p>	<p>※ プリントにして配布する。</p>
<p>I want to be a Japanese sweets cook. I love Japanese sweets because they are colorful, healthy, and delicious. We can also enjoy seasonal sweets. For example, sakuramochi in spring and mizuyokan in summer. In the future I want to make my own original Japanese sweets. Now I think I have to practice cooking anko.</p>		
<p>○ モデル文の音読・暗唱</p>	<p>○ 音読し、暗唱できるまで練習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師のあとについて2回繰り返して読ませる。 ・ 生徒の個人読みを3回行う。 ・ もう一度教師のあとについて読ませる。 ・ 黒板に書いてある英文を生徒全員で声を合わせて読ませる。 ・ 黒板に書いてある英文を徐々に消しながら、生徒に読ませる。 ・ 最後は何もない状態で暗唱させる。 	<p>※ 音読を繰り返すことで、英文を書くときに役に立つ表現が耳に残るようにする。</p>
<p>○ モデル文の構成の確認</p>	<p>○ モデル文の構成を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来になりたいもの ・ 理由 ・ 将来仕事を通してしたいこと ・ 将来に向かって今すべきこと 	<p>※ 必要に応じて、個人練習の時間を短時間確保する。</p> <p>※ 大型テレビを活用して、短時間で確認させる。</p>

	<p>【大型テレビの画面】</p> <p>★ I want to be a Japanese sweets cook.</p> <p>★ I love Japanese sweets because they are colorful, healthy, and delicious. We can also enjoy seasonal sweets. For example, sakuramochi in spring and mizuyokan in summer.</p> <p>★ In the future I want to make my own original Japanese sweets.</p> <p>★ Now I think I have to practice cooking anko.</p>		<p>将来 なりたいもの</p> <p>理由</p> <p>仕事を通して したいこと</p> <p>今すべきこと</p>
6.	マッピングをする	○ 構成に従って英語または日本語でマッピングをさせる。	<p>※ マッピングをさせる前に、教師自身がマッピングしたものを例として見せる。</p> <p>※ 机間指導を行いながら、評価項目のエー①とエー②を意識して生徒のマッピングの様子を見取る。</p>
7.	英文を書く（下書き）	○ マッピングした用紙を教師がチェックし、合格した生徒から英文の下書きをさせる。	<p>○ エー①，エー②</p> <p>【ワークシート】</p> <p>※ 書くことが難しい生徒に対して、補助プリントをわたす。</p>
8.	ピア・レビュー	<p>○ ペアでお互いの下書きを読みあい、聞き取ったことをメモする。</p> <p>○ メモをもとにチェックリストに記入させる。</p>	<p>※ 聞き取ったことをもとにチェックリストを記入することが難しい生徒は、下書きそのものを見せてもらいながらペアで協力してチェックリストを完成させるよう促す。</p>
5分	9. まとめ 10. 自己評価シート	<p>○ 次回はチェックリストの結果をもとに、文の構成やつながりを意識した文を書くことを目標にすることを伝える。</p> <p>・自己評価シートに記入させる。</p>	<p>※ 読み手を意識した英文を書こうとする意欲をもたせる。</p>